

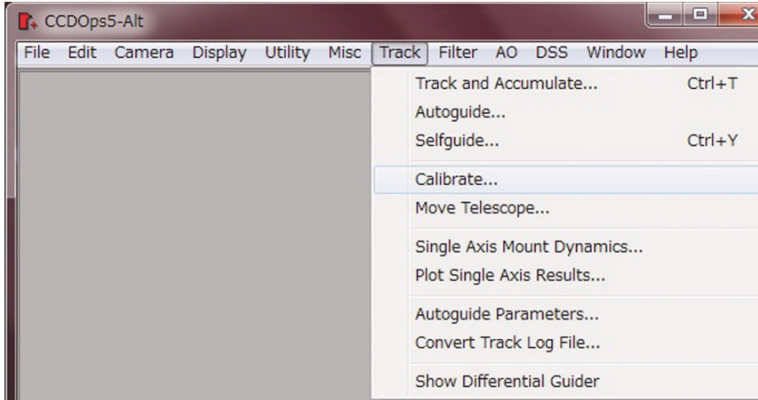
How To オートガイドー操作

ST-i・ガイド鏡筒アッセンブリー編

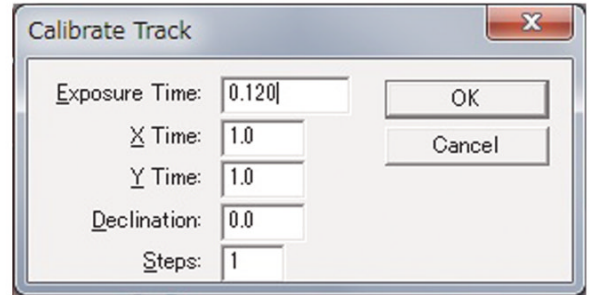
(1台のパソコン・CCDOPSで、ST-i→オートガイドーとメインCCDカメラ→撮像カメラを同時制御可能です！)

ST-i・ガイド鏡筒アッセンブリーを制御する、CCDOPSソフトウェアでオートガイドを行ないます！

まずは、取説の手順通りに「ST-i」及び「ガイド鏡筒アッセンブリー」をスタンバイします。



次に「CCDOPS」ソフトの「Track」→「Calibrate」を実行します。

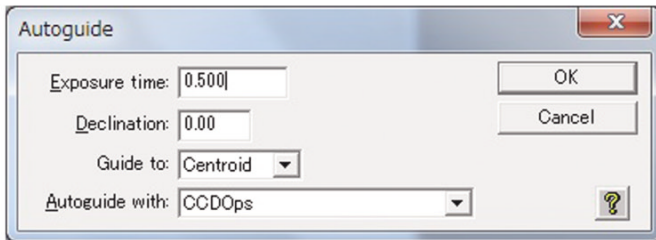


「Calibrate」コマンドの詳細。 → → → → → → → → ↑

ここでは「Exposure Time (基準となる星を検出する為の露出)」と「X (Y) Time (赤経・赤緯各軸のモーターの動作時間)」を設定します。この時に駆動する「モーター倍速」は、その時に設定されている「電動駆動の倍速 (例えばハンドコントローラーのボタンを押して駆動する速度)」をそのまま利用します。通常は、この倍速は「0.5~0.7倍速 (恒星時の50~70%の超倍速)」が目安なのですが、このST-i・ガイド鏡筒アッセンブリーの場合には、なんと「**120倍速 (EM200 Temma2Jrの場合)**」で設定が完了致しました！これはおそらく同赤道儀のモーターが非常に滑らかで一定なモーター加速が制御されているためと考えられ、実際にオートガイド時の補正に使用されている倍速はもっと低い倍速と考えられます。

ここで **ポイント!** 「Calibrate」はモーターの動作の試運転、この後のオートガイディングの必須コマンドで、この時、基準点として使用されるのは「視野の中で最も明るい恒星」となります。また、このコマンドを実行する前には、撮影カメラの構図に関係なく「最も明るい恒星」をST-iの視野の中心に微動する事で効果的な結果が期待できます。キャリブレーションが成功しましたら、構図を戻します。

さて、最後は「Track」→「Calibrate」を実行します。



「Autoguide」コマンドの詳細。

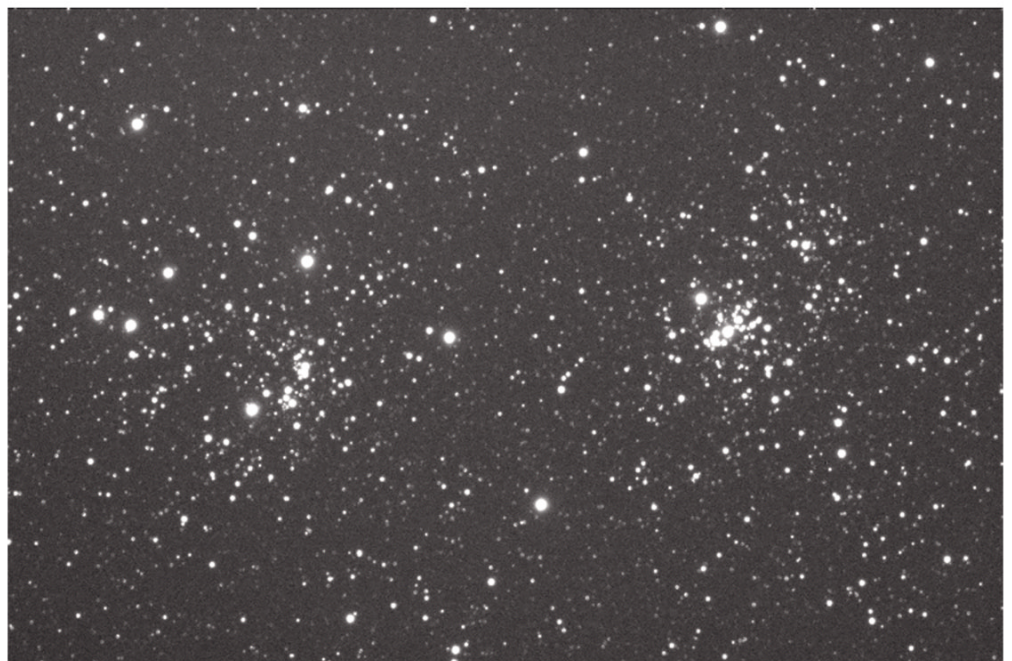
ここでは「Exposure Time (基準となる星を検出する為の露出)」を設定します。上記のキャリブレーションが精度良く完了していると、後は適切なガイド星 (最も明るいものより多少暗い目の星が望ましい) を任意に選択し、後はオートガイドを実行するだけです。オートガイドの詳細につきましては、

www.sbig-japan.com/CCDOPSJ/AG.html をご参照下さい。

↓ 「Calibrate」が成功!



SBIGジャパンが
お手伝いさせていただきます!



二重星団 (h - χ) : ED65Q鏡筒 (焦点距離: **423mm** F6.5) + ST-402ME・ABG
+ ST-i・ガイド鏡筒アッセンブリー (焦点距離: **100mm**)